

集落ぐるみで取り組む 獣害対策

**野生獣のエサ場として
価値の低い地域に！**



**防護柵の定期点検・修正・改善により
効果が継続！**

奈良県南部農林振興事務所

集落ぐるみの獣害対策をどうすすめる？

1. みんなで勉強

シカ・イノシシ・サル等の正しい情報を共有

2. みんなで集落点検

例 収穫しない果樹〔カキ、クリ等〕がある
お墓にお供えがある
野菜くずが棄ててある
放置竹林がある
耕作放棄地等安心して身を隠せる場所がある

シカ・イノシシ・サルが里にやってくる原因を
多くの人に知ってもらう。

3. シカ・イノシシ・サル等から農作物を守るための取り組み

① 餌を無くす

野菜くずは、鋤込む、柵で囲む
放任果樹は伐採する
畦畔・果樹園の草刈り
(10月下旬以降)

② 隠れ場所を無くす

藪や休耕地の伐採・草刈り
休耕地に牛・ヤギを放牧

自分たちでできること

③ 柵で囲い、追い払う

- ・正しい柵の設置
- ・定期的な点検とメンテナンスの実施
- ・栽培の工夫

・サルの場合、電動ガン、パチンコ、動物駆逐用煙火を使うなど、見かけたら追い払い「人間は怖い」と学習させることが大切

④ 捕獲・駆除

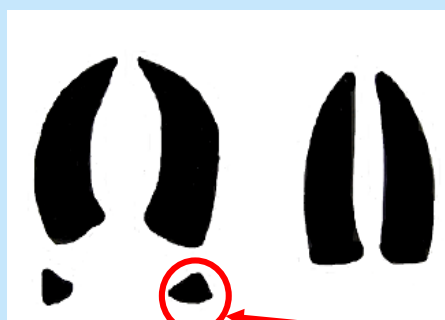
①～③を実施しても被害が収まらないようなら捕獲や駆除を行う必要がある。
捕獲や駆除だけでは被害はなくなる

知っておきたいイノシシの話

- 年1度、春から夏に4～5頭の子供を産む。1歳までの死亡率約50%（2歳で初産。高い繁殖能力。栄養状態がよければ子供の生存率は高まる。）
- 何でも食べる雑食家
- エサを求めて昼夜を問わず活動している。「夜行性」と言われるのは、人が活動していない時間帯に集落や田畑に出没し、被害を与えるため。
- 前足をかけなくても1.2mの高さの柵を飛び越える能力がある。
- 鼻で70kgの石を持ち上げる。
- 行動範囲は2km四方。数日から数ヶ月単位で定住・移動する。
- 20cm程度の間隙があると、潜ろうとする。
- 鼻・お腹以外は剛毛で電気を通しにくい。
- 警戒心は大変強い（藪から出るときは一旦停止）
- 犬と同じくらいの臭覚（いつもと違う臭いには敏感）
- 雄は雄だけの群れもしくは、単独生活、雌は母子の小グループ生活をする。

知っておきたいシカの話

- 年1度、5月～6月に1頭子供を産む（2歳で初産。栄養状態が良ければ1歳で産む）
- 草食性で、ほとんどの植物を食べる。
- 昼夜問わず2～3時間採食、2～4時間休みながら反すうを繰り返し生活している。（昼は山にいるが、人間が天敵のため、夜に集落に出没し採食する。）
- 1.5mほどのジャンプ力がある。（侵入防止柵は高さ1.8～2mが有効）
- 行動範囲は2km四方。一定地域に定着し生活している。
- 下にすき間があれば、潜り込む。（ネットの下をペグで必ず止めておく。）
- 警戒心は強いが、凶々しい。（山際から200mくらいまで集落の中に侵入）
- 視覚聴覚は人間並み、嗅覚は人間より発達。臭いで危険を察知し「ピイツ」という警戒音を発し、仲間に危険を知らせる。
- 雄の群れと雌の群れを形成し行動する。しかし、秋の発情期には雄は縄張り争いを行い勝ったものがハーレムを形成する。
- ひづめの間に入って傷つけるものを嫌がる。（太紐のネットやロープ、グレーチングなどを地表面に置く）



イノシシ

シカ

足跡に副蹄跡が残る。



シカの糞



イノシシの足



イノシシの糞

知っておきたいサルの話

- 5月～6月に出産し、1回に1頭子供を産む（6～7歳で初産。その後2～3年に1回出産する。（栄養状態が良いと4～5歳で初産。毎年出産する場合もある））
- サルは雑食性。（植物性のもの（果実・種子・葉・芽など）を中心に食べるが、虫やトカゲなど動物性のもも食べる）
- 木登りや跳躍が得意。数ミリの突起やへこみがあれば登ることができる。
- 群れは雌とその子を中心に構成されており、10～100頭となる。雄は大人になると別の群れに入ったり、離れザルとなったり、雄グループで生活したりする。
- 行動範囲は約20平方km。季節によって行動域が変わるため、1年中被害のある集落と、季節的に被害が発生する集落がある。
- エサ場をさがし、群れで行動。共同でエサをとったり、侵入するといった能力はない。
- 警戒心は強いが、慣れると大胆。
- 記憶力が高く、安全な場所やエサ場をよく覚えている。怖い場所や人も覚えているので追い払いの効果があるが、人慣れがすすむと追い払いが難しくなる。
- 視覚は人間並みであり、そのため夜は行動しない。



畑を荒らすサル



侵入を試みるサル

メモ

何故、野生獣の被害が起こるのか？

- 集落にたくさんの餌がある。
- 安心して過ごせる場所がある。

食べても人に怒られないエサ



ヒコバエ(水稲収穫後の再生茎)



廃棄されたカキ



生ゴミ



収穫しないカキ



クズの根



放任竹林のタケノコ



白菜の残渣



スイカの残渣

食べると人に怒られるエサ



葉先を食べられた水稲苗



折られた柿の主枝



新芽を食べられた果樹苗



食べられたサツマイモ



ヌタ場となった水稲圃場



食べられたトウモロコシ



下枝の葉がないウメ

上記はいずれも野生獣への「餌付け」である。

「集落での餌付け」をなくすことが大切。

こうした状態が続くと野生獣の栄養状態が良くなり出産の低年齢化や幼獣の死亡率低下により数が年々増加してきます。

被害防止に向けた取り組み、被害防止対策

安心して過ごせる場所をつくらない。



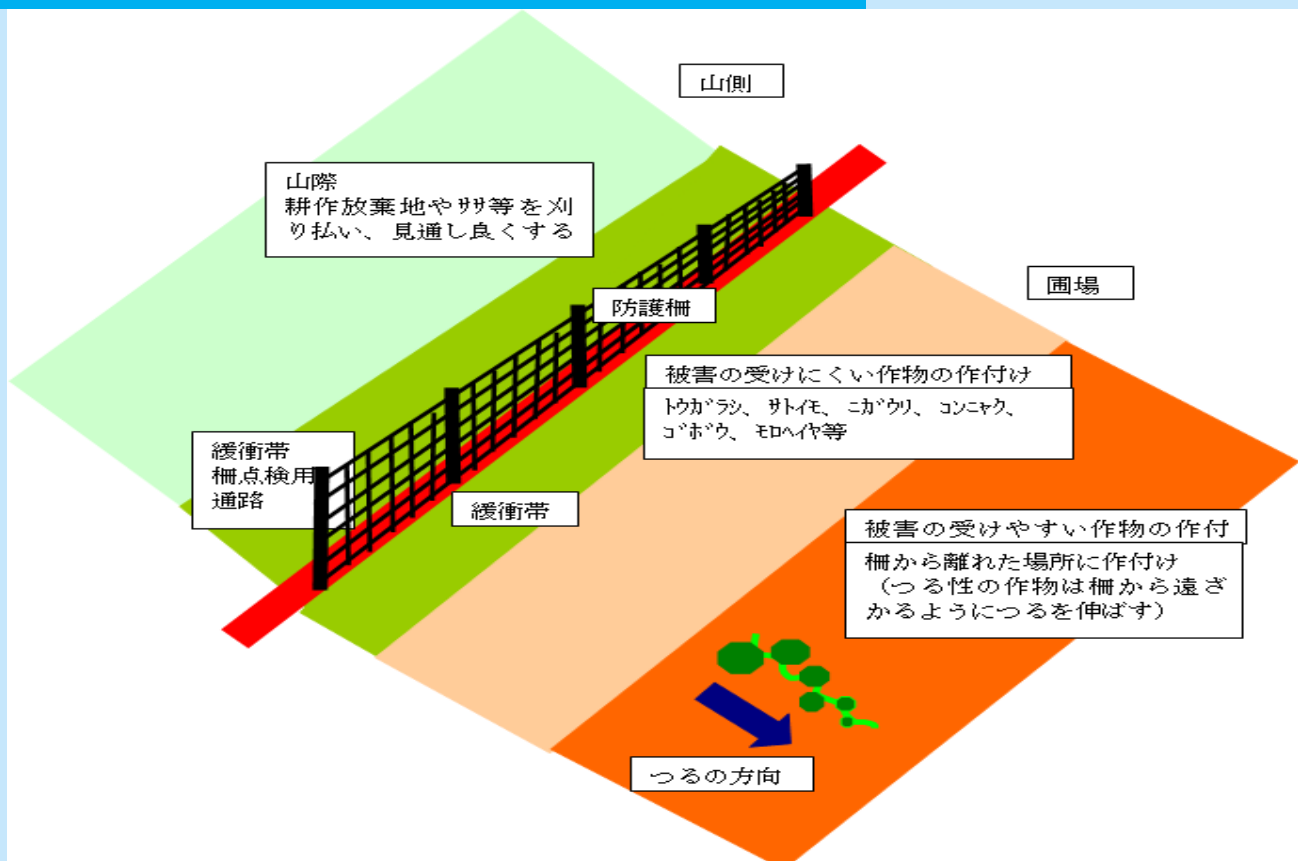
集落や圃場、柵周辺が雑草や竹・ササなどで覆われていると、野生獣はその周辺まで安心して過ごし、移動することができる。

安心して近寄れないようにする。



集落周辺の耕作放棄地の草刈りを実施し、野生獣の潜み場を減らすことで山際から圃場までの見通しがよくなり野生獣の出没がすくなくなり、被害の軽減につながる。また、放置竹林の場合、伐採することでタケノコもできなくなるのでイノシシのエサ場も減ることになる。

野生獣対策を前提とした圃場設計例



防護柵設置の3原則

- ① 農作物の味を覚えさせない。
- ② 「潜り込める」・「飛び越せる」とは思わせない。
- ③ 柵の設置は適正に。



① 視界を遮蔽する柵



② 強度で阻止する柵



③ 煩わしさであきらめさせる柵



④ 電気柵

設置や管理が適正でない防護柵



アスファルトのすぐ横に電柵設置
(電圧低下)



電柵の一番下の線の隙間が広い



ワイヤーメッシュ柵の下に隙間



電柵のガイシが内側



草による漏電で電圧低下



電柵の線近くに石



傾斜のすぐ下に設置された電柵



柵のところまでヤブがせまっている



ネットの支柱が外側になっている

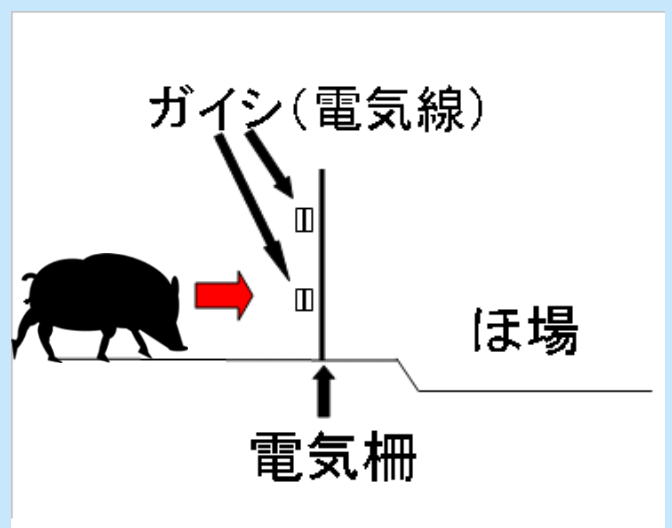
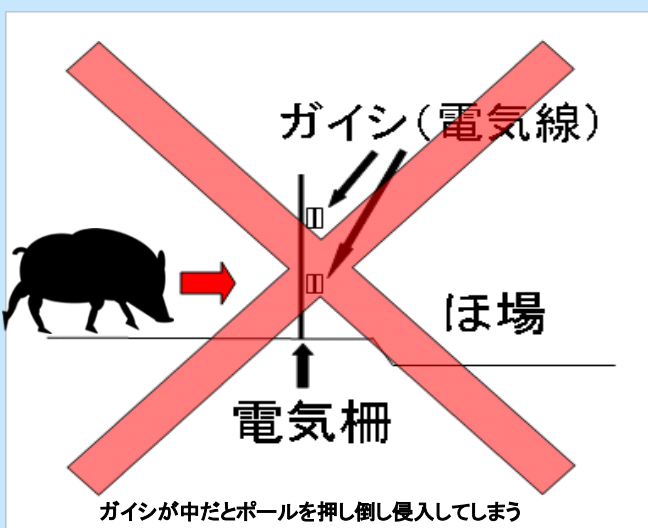
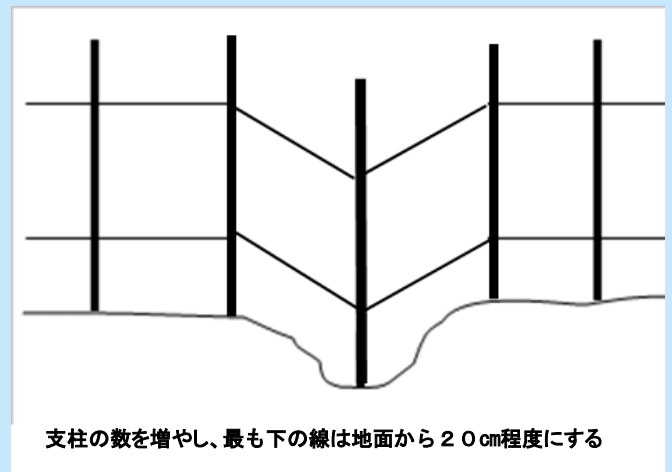
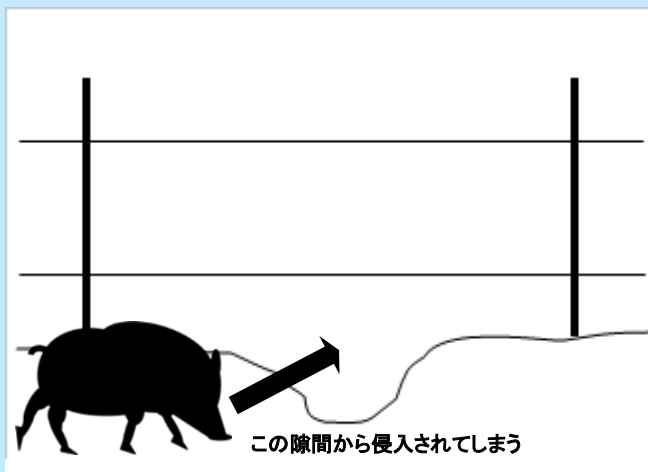
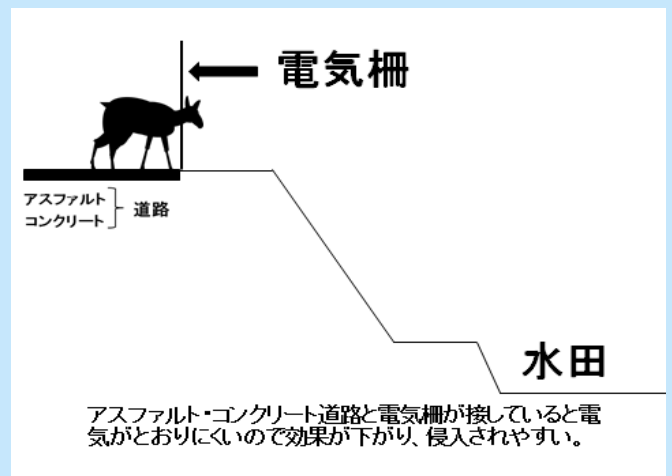
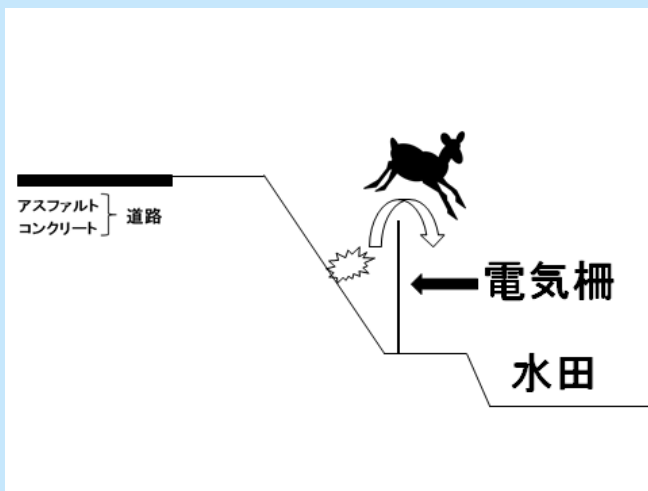
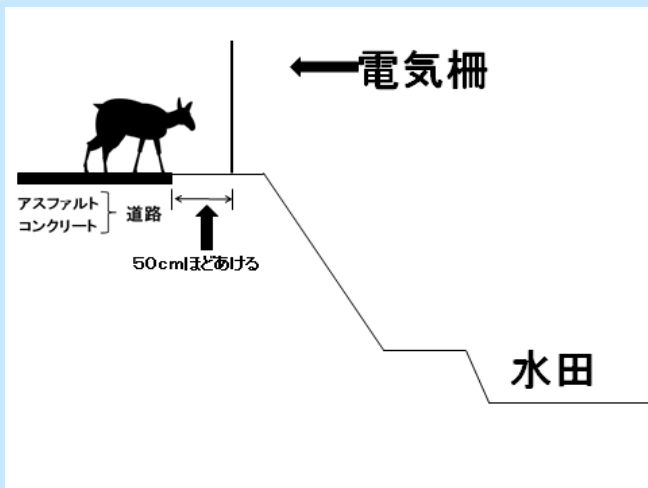


電柵の線が交差している



電柵の線が切れている

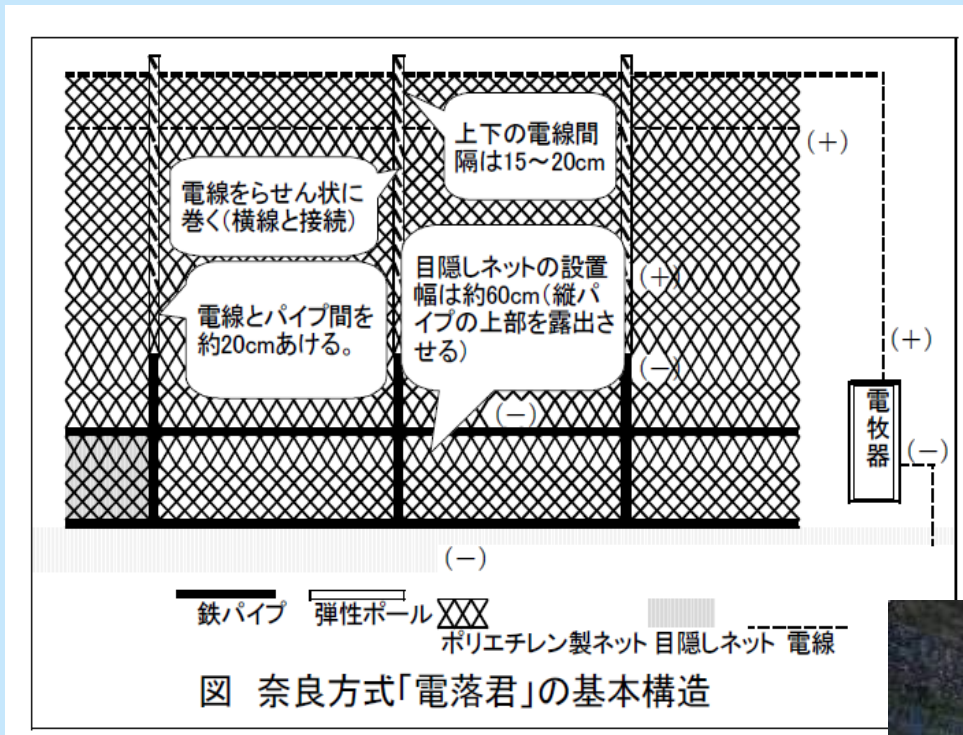
電柵設置の注意ポイント



- 電線の地面からの高さは、
- ・イノシシの場合、20cmと40cmの2段が基本。心配な場合は60cmにも追加。
 - ・シカの場合、30cm、60cm、90cm、120cmに設置。
 - ・シカ、イノシシ兼用の場合、20cm、40cm、60cm、90cm、120cmに設置。
 - ・イノシシ・シカともに最も感電しやすいのは鼻先なので触れやすい高さに設置する。
 - ・電柵の電気は、日中昼間、農作物の有無に問わず常に流しておく。守る農作物がない場合はいったん電柵を片ずける。

サル対策の柵

①電落君



②金網柵と電柵の組み合わせ



お気軽にご相談ください。

鳥獣害対策の疑問を、ともに考える中で、よいヒントが出てくるかもしれません。

集落単位などでの講習会も受付いたします。お気軽に相談下さい。

奈良県南部農林振興事務所 農業普及課

奈良県五條市西吉野町湯塩1345

TEL 0747-24-0131

FAX 0747-24-0134

この資料を複製・転載する場合は必ず南部農林振興事務所に相談してください

メモ